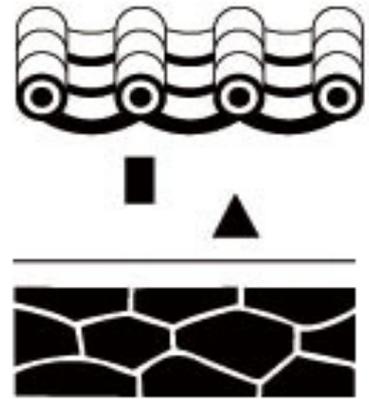


OGO 第83号

小田原ガイド協会だより

令和2年3月1日発行（春号・季刊）

NPO法人 小田原ガイド協会 〒250-0014 小田原市城内3-22
TEL. 0465-22-8800/FAX. 0465-22-8814
ホームページURL <http://www.odawara-gaido.com>



【巻頭所感】

企画ガイド委員会で 取り組む課題

和田元穂

私がガイド協会の目玉の一つであるガイドの企画に携わる様になったのは平成三十年四月からであり、当初の三、四月は企画ガイド委員会の仕組みや運行、取り組み等を知ることからスタートしました。本当に何もわからず新入社員のような状況から委員会に席を置く諸先輩の方からの指導のもと、一つ一つ事案に取り組んで参りました。

現在企画ガイド委員会の構成は男性五名、女性一名の六名体制です。理事会で、企画ガイド委員会の取組みや「ようこそ小田原へ」の進行状況等を報告し、月一回の企画ガイド委員会でレジュメを作成して報告をしています。その中で課題として取り組んできたのは、一つ目は企画ガイド「ようこそ小田原へ」のチラシ作成を早め、配布場所である関係施設に四十五日前を目途に配布することです。これに

は企画ガイドを担当する実行責任者との連携を図り、原稿の内容確認と印刷の依頼をしています。二つ目は「ようこそ小田原へ」のチラシを少しでも早くお客様へお届けすることにより参加者の増加に繋げる思いがあります。今後とも継続して早期着手、早期配布を推進して行きます。

二つ目は平成三十年度、企画ガイドの選定に当たり、協会員の皆様にお願いをして企画を募集し、それを企画委員会で精査、理事会で責任者を決め承認することと推進して参りました。この方法は企画ガイド事案のマンネリ化を防ぐ狙いと新しい企画を呼び起こすことを主眼としました。企画ガイドは年間十六、十八件を予定していますが、定番ガイド「七福神・総構・石垣山一夜城・根府川のおかめ桜」とともに過去に実施した企画ガイドが多く「これで良いのか」と自問自答する状況でした。今後は若い協会員を中心に新規企画ガイド事案の掘り起こしを進め、年間の企画の内三、四件は新規の事案を取り入れられるように推進していきます。

三つ目は「ようこそ小田原へ」のチラシは刷り上がって来たら、委員会の担当者が仕分けして関係施設に直接配布をしています。少しでもロスを減らすため関係部署の協力をいただいて配布袋を作成し、関係施設に届ける準備を進めています。

四つ目はメディア対応です。現在企画した「ようこそ小田原へ」は全国紙二社、地方紙一社、地域メディア二社、小田原市の「広報小田原」「キャンパスおだわら」に協力をいただいて掲載をお願いしています。しかしながら最近のお客様の参加状況を見ますと、ガイド協会のホームページを見ての参加者も増加傾向にあります。その中で、特に考えさせられるのは参加されるお客様の住所です。現在小田原市からの参加者が約半分、小田原市以外の参加者（横浜、藤沢、平塚、秦野、厚木等）も約半分を占める状況です。今後は市外の参加者が増加すると考えられます。

いろいろ課題はありますが、良い企画、丁寧なガイド、お客様に喜びを与えられる態度で企画委員会がスクラムを組んで、よりよい企画作りに邁進してまいります。

◆企画ガイド◆

国府津の
文化遺産めぐり

富澤 節子

十一月十日、晴天の中、国府津駅からスタートです。看板建築の残る町並みを歩き、親鸞聖人ゆかりの真楽寺に到着し、帰命堂を開けていただき、寺宝を拝見しました。その後、道真公が祀られている菅原神社へ行きました。偶然にも優美な神輿を拝見でき、急遽、撮影タイムとなりました。次は時宗の蓮台寺です。始祖の一遍上人の踊り念仏の話をしたら、実際に蓮台寺の踊り念仏を見たというお客様がいました。形は代わったかも知れないけれど、今なお、上人の教えが受け継がれているのです。この時宗は、寺紋が稲葉氏と同じ「折敷に三」です。一遍上人も稲葉氏も出自が伊予の河野氏の様です。別荘地跡を抜け田島の横穴墓、北条時代に勧請された田島のお地藏さんを拝見後、昼食です。昼食後、文化財の仏



桜の名所 剣沢川の土手に行く

像、お寺宗派についてお話しました。自分では一番の正念場でした。玉泉寺からは桜並木の剣沢沿いに歩きまわりました。お客様の中心に地元国府津の方がいまして、資料で調べた森戸の松のあった場所も、お客様の記憶と同じで、ほっとしました。テーマは文化財でしたが、ハイキングとしても楽しんでいただき、和気あいあいと三ツ俣遺跡を通り、街中へ戻ってきました。途中、飯泉へ通じる巡礼街道に置かれていた「左いゝすみゑ」の道標に何かか、皆さん感動でした。海沿いの勧堂で解散です。無事終了に感謝ですが、もっと勉強をと自戒の思いです。

像、お寺宗派についてお話しました。自分では一番の正念場でした。玉泉寺からは桜並木の剣沢沿いに歩きまわりました。お客様の中心に地元国府津の方がいまして、資料で調べた森戸の松のあった場所も、お客様の記憶と同じで、ほっとしました。

◆企画ガイド◆

令和初!
七福神めぐり

小菅 悟志

お正月のしめ飾りが家々の玄関を飾る中、七福神巡りのツアーで小田原市街へ繰り出しました。出発地点の小田急足柄駅には定刻の五十分前に到着したものの、すぐさまお客さんが集まり始めた。皆さん澁刺とした元氣一杯の表情である。とても今から始まる過酷な八ヶ岳の道程を、何ら苦とも思っていないようである。お客さんは総勢三十名、私の分担当は十名でお顔をしっかりと頭の中に叩き込み、第一弾スタートで毘沙門天を目指した。本日のコースは七福神巡りで、小田原の場合その全てが寺院であるため、まずは寺院参拝時の心得をお客さんをお願いした。しっかりと耳を傾けていただき、中には「もう一つ大切なことがあるね。須弥山には決して足を踏み入れないこと」と。さすが企画ガイドへの参加者だけに、その



分野で通の方が多く感じ気持ちを引き締めた。寺院から寺院への道程では、お正月・箱根や丹沢の山々・壮大な相模湾・ジオ・鉄道・城山地区寺地・総構など、寺院以外の話題でガイド内容も豊富であった。小田急沿線の道程では三本軌道、新幹線開発と小田急との関わりを話題にして大いに受けた。また、椰の木の話では、ガイド説明の後に、お客さんに下に落ちていた葉を縦方向（長手方向）に力一杯引張ってもらった。予想に反し見事に切れ、「夫婦仲も年老いてからは無理せず、張り切り過ぎず、気を付けましょうね(笑)」今回七福神のことは資料でお伝えしてあるので、寺院以外の道すがら出会う郷土の歴史・文化に重きを置いた。寺院の開山・開基とか宗派・本尊だけでは味気ないと判断したからだ。後でアンケートを読むと、皆楽しく歩け満足感に満ちた様子で、無事終了したことに安堵・感謝である。

昼顔咲く早川の渚に 夕陽がさして

第三回語り手 三元 良紀

■お生まれは？

昭和八年の六月です。早川の真福寺の次男として生まれました。寺は平安時代の開山で、小田原では宝金剛寺、飯泉観音に次いで、三番目くらいに古い寺です。

境内には、天然記念物のイトヒバやタブノキなどの樹木があり、しだれ桜やソメイヨシノも咲いていて、駅の方から見るとピンクの山だった。それで画家とか作家とかがよく来ていたなあ。

■境内に小説家の川崎長太郎さんの石碑がありますか？

川崎長太郎さんは、毎日のように来て、顔を洗ったり、うがいしてたりしていた。ポロポロの恰好で、子ども心に「汚い人だな」なんて思ったりもしました。



漁港ができる前の早川海岸
(小田原市立図書館「一枚の古い写真」より)

■少年時代を過ごした早川は、 どんなところでした？

半農半漁の村で、サラリーマンは少なかった。戦後は蜜柑が外国まで輸出され「蜜柑成金」が増え、同時に相模湾でブリが豊漁で「ブリ大尽」も生まれた。だから、景気も良く、意外と賑やかでした。食料事情の悪い時代だったけど、僕らは困らなかつた。

■新潟、山形、秋田などから も季節労働者が来て、活況で したよ。

その頃は、港も新幹線も国道一三五号線もなかつたけど、駅前あたりは、それほど変わっていませんね。秋は蜜柑の出荷で賑やかでした。

港ができる前の早川の海岸は、今考えるときれいだつたなあ。玉石の堤防のすぐそばに、昼顔が薄いピンクの花を咲かせていて、そこに夕陽が差し込んで、堤防を乗り越えると、波打ち際まで砂浜が百メートルくらい続いていました。そこが僕のトレーニング場で、野球や空手やいろいろなことを行った。

■やがて大学進学のために東京へ出るのですか？

ええ。僕は外交官志望だったけど、勉強しなかつたからうまくいかなくて。東京ではケンカばかりしていました。男は強くなければいけないという気持ちが強くて。弱いものいじめするものを見過ごせない。新宿の街で、ヤクザに取り囲まれこともありました。でも負けたことなかつたですよ。早川で、飯場に殴り込みに行ったなんてこともありません。

■紳士の三元さんにそんな武勇伝があったのですか？

戦後、新幹線の工事でやってきた工夫たちが、勝手なふるまいをしていた。このままでは寺の経営すら危うくなっ

てくる。何とか、寺を守りたい。その一心で木刀を持って一人飯場へ乗り込んだわけですね。仕込み杖やツルハシをもった荒くれ者たちに取り囲まれて、結局、向こうの親分が謝ってくれました。その後、飯場の人たちとも仲良くなりました。

■やがて早川に港ができ、新幹線が走るようになって……

工事が始まってすぐに、僕は早川から離れていったから、詳しいことはわかりません。

港ができて、早川の街自体はそれほど変わったようには思わない。でもね、子どもの頃、戦争ごっこなんかをした仲間たちが立ち退いて、どんどん去っていく。たまに帰ると、知り合いが減って、浦島太郎みたいな感じでしたね。

■今後の早川の観光についてはどう思いますか？

早川は、古くから一社五ヶ寺があつた伝統ある地域。何とか、この文化遺産と水産などの観光資源をコラボする方法を工夫して、そうしなければ、もつたいたいと思いません。

(文責：編集部)

酒匂川に 架かる船橋

岡田 秀昭

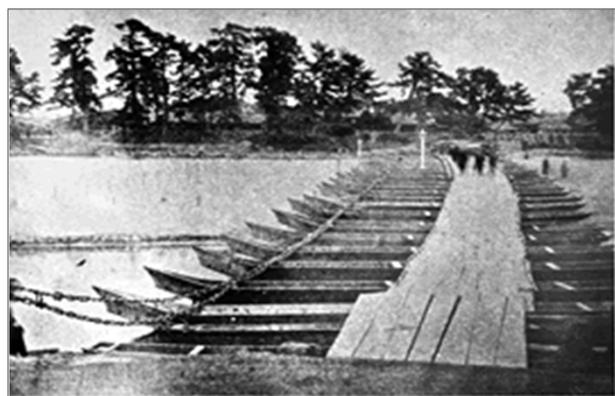
江戸時代は交通網や宿場などの施設の整備により、物流や旅行が活発に行われた時期だった。

徳川家康は、五街道を日本橋を出発点として整備、一里塚などを造り、関所を設け「入り鉄砲」「出女」を取り締まった。そして、大きな川には橋を架けなかった。幕府は、通行の便を良くすることより、河川による防衛機能を優先したのだ。

水嵩の多い時、川を渡るには主に二つの方法があった。ひとつは、川越し人足の手を借りて渡る方法で、旅人が人足に肩車をしてもらったり、輦台（れんだい）に乗って担がれて渡った。これを《徒歩（かち）渡し》という。もうひとつが渡し船を利用するもので、これが《船渡し》だ。

東海道では、六郷川（多摩川）、馬入川（相模川）が船渡し、酒匂川、大井川が徒歩渡しだった。

將軍の上洛や朝鮮通信使の来日といった大事な行列があった場合、通常とは異なる川の渡り方があった。それが「船橋」といわれる方法だ。「船橋」とは、川幅いっぱい船を並べ、鉄の鎖や大綱、鋸（かすがい）などでそれを連結し、錨で一艘ずつ固定して、その上に板を通してつくる仮の橋のことだ。写真参照／この船橋は加賀前田藩が大名行列の時に架けたものである。



神通川の船橋(宮内庁所蔵写真)

橋に使用される船は廻船、水揚げ船、漁船などで、二人乗りから五人乗りの小船が使用されたようだ。周辺の村々よりの調達だった。

このコラムの第一回に書いた享保の「象の將軍謁見」の折も、木曾川や六郷川（多摩川）で船橋が架けられたという。象がのっしのっしと船橋を渡ったというわけだ。

酒匂川にも「船橋」を使った記録が残っている。「小田原市史料編近世II」によると、享和年中（一八〇一〜三）の通信使来日に際し、伊豆国の十ヶ組合に、船を廻して酒匂川船橋を掛け渡すようにとの仰せが出されたという記録がある。

江戸時代は「鎖国」といわれるが、朝鮮通信使をはじめオランダ人、中国人など異国人使節が江戸参府をし、東海道を歩いた。派手な行列で、おおぜいの供を連れ、笛を吹いてゆつくりと街道を進んでいった。

朝鮮使節の江戸参府は慶長三年（一六〇七）から十二回ほどあった。琉球使節も嘉永三年（一八五〇）までに十回

を越えて入府している。オランダのカピタン使節の江戸参府は寛永十年（一六三三）以来であるが、寛政二年（一七九〇）以後は、五年に一回の割で参府している。

異国人の通行のためなどで酒匂川に時折、船橋が架されたようだ。享保四年に朝鮮通信使が通行した時は、酒匂川の川幅五町二〇間に七十七艘の船が、船橋掛船として指定されたと記録されている。

船は主として西伊豆地域の駿河湾沿いの村から調達された。船のみでなく、多くの農民漁民が人足として狩り出され、酒匂村、山王原村、網一色村の人々と共に工事に従事した。

船橋架設は難工事でも水深と急流のため、しばしば中断しなければならなかった。使節一行が通過すると橋はすぐに解体された。

《参照》

『宿場の日本史』

（宇佐美ミサ子著）

横浜国道事務所資料他

【2020年『春』の企画ガイド】 申込み・お問合せ 0465-22-8800

No.	企画ガイド	日時・集合場所	参加費	コース
1	お城がもつとも華やぐとき	3月 28日(土)・29日(日) 10:00～15:00頃 小田原城馬屋曲輪隅櫓	無料	直接会場へお越し下さい (申込不要/小雨決行) ※桜湯・甘味等 有料
2	県北西部の自然満喫と 歴史遺産への望郷	4月4日(土) 約6km 10:00～13:00頃 御殿場線山北駅 10時集合	700円	山北駅～河村城址～洒水の滝 ～御殿場線桜の道～鉄道公園
3	江戸時代を彷彿とさせる 酒匂川の徒歩渡し	4月26日(日) 約7.5km 9:00～12:30頃 JR鴨宮駅 9時集合	700円	鴨宮駅～酒匂神社～法船寺～ 酒匂川の渡し～今井陣場～ 蓮上院土塁～江戸口見附～ 小田原駅(解散)
4	戦国の大堀切周辺の散策と フラワーガーデンの薔薇鑑賞	5月16日(土) 約10km 9:30～14:30頃 小田原駅西口三省堂前	700円	小田原駅西口～小峰御鐘ノ台大 堀切～白秋の散歩道～水之尾毘 沙門天～辻村植物公園～龍泉寺 観音堂～フラワーガーデン

- ・各コース参加申込みは実施日の45日前からです。小田原ガイド協会HPでもご案内しております。
- ・コースは、状況により、順序が前後する場合があります。

十二月以降の退会者
落合信夫さん 須藤未来さん
諸星緑さん 渡辺美地子さん
ありがとうございます。

戦場となりました。狩野城は小高い山に自然の地形を利用し、土塁と空堀などによって区切られたいくつもの郭(くるわ)があり、北条氏がつくった高度な築城とは違いわかりやすい山城でした。下から上がってくる敵をこの辺りで待ち伏せしたら。また、女人は川から船に乗って逃げようとして見つかかり川に身を投げたと聞き、平家物語の壇ノ浦合戦と重なり哀れを感じたり。そして、満江御前はこの山里を駆け回って遊んだのだろうか。いろいろと想像をかきたてられてしまう城跡でした。

足利義教公の御前で絵を描いたことで、狩野景信・元信親子は京に上り、正信は後に「狩野派」をおこしました。人と人との出会い、この縁がなければ武将としてではなく、絵師として天下を取った職業絵師集団狩野氏は存在していなかったと思えました。



伊豆市「観光情報サイト」より

◆ リレーエッセイ/わたしの城旅⑦ ◆
武将「狩野一族」と
絵師「狩野派」のふるさと

鈴木康子

狩野城跡周辺は曾我兄弟の母満江御前の故郷です。滝川クリステルの祖母の生まれた所でもあります。平安時代後期に藤原維景が駿河守の任後、伊豆に住みつき子孫が狩野城を築き、伊豆を代表する武将として四百年間活躍しました。

十五世紀末、伊勢宗瑞と戦い狩野城は

《編集後記》

「プレイバック小田原」の取材を終えて、いつも、ガイド協会にはなんと魅力的でステキな先輩が多いことか!と思えます。毎回多くの材料をいただき紙面には到底書き尽くせません。記事の続きは、P当番で一緒になった時などに、ぜひ、伺ってください。(T)

編集委員：磯崎知可子(委員長)・戸田博史・中村哲夫・宮澤周子・上田信一